

特集

地域包括ケア時代の リハビリテーション

重 度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が急がれています。その中でリハビリテーション専門職に特に期待されている予防と生活期医療の領域を中心に新しい動きをご紹介します。

リハビリテーションをめぐる政策動向と課題 村井千賀氏……………275

これからの介護予防では、高齢者の「参加」に向けたアプローチなどが重視される。地域リハビリテーション活動支援事業におけるリハビリテーション専門職には、地域ケア会議や介護予防・日常生活支援総合事業、一般介護予防事業などでの活躍が期待されている。

地域づくりによる介護予防のエビデンス 林 尊弘氏ら……………281

「地域づくりによる介護予防」への転換の背景には、対象者が集まらないことなどの二次予防の限界、地域間格差や社会参加と要介護リスクとの関連が明らかにされてきたことがあった。国内外の地域介入の実践と研究の到達点、地域づくりで専門職が果たす役割などをご紹介します。

運動を取り入れた住民主体の介護予防の実践

—共通プロセスと課題 北村 優氏ら……………287

住民主体の通いの場づくりにかかわる 20 事例 32 文献をレビューしている。そのプロセスは住民啓発期、住民主体への移行期、住民主体期に分けられ、効果検証までしたものは少ない。リハビリテーション職の役割として、活動や参加の促進のほか、コーディネートや評価などへの関与がある。

ニュース 「ノーマライゼーション・障害者の福祉」2月号特集目次……………286

職員の高齢者虐待 300 件—36%増え過去最多に（厚生労働省）……………	293
医学部低学年の留年率が大幅上昇—医学部長病院長会議……………	303
郡山の団体 冊子発行、肢体不自由介護方法を紹介……………	318
1,076 人中、合格者 23 人—手話通訳士試験で過去最低……………	319
人材確保へ連携強化—障害者の就労支援も……………	331
障害者権利条約の発効記念、黄色にライトアップ……………	352

生活行為向上マネジメント 大庭潤平氏ら……………295

日本作業療法士協会の「生活行為向上マネジメント」では、日常生活動作（ADL）・手段的日常生活動作（IADL）・社会参加などを含む生活行為に障害のある者を支援するときの臨床的思考プロセスを「見える化」した、「家で料理を作りたい」を目標とした、地域での実践事例についても紹介していただいた。

地域ケア会議でのセラピストの役割 逢坂伸子氏……………305

地域ケア会議におけるリハビリテーション専門職への期待に応えるには、個別支援や直接的アプローチだけでなく、生活の視点、地域の他職種と一緒に、連携・協働していく心構えや視点が必要である。大東市での地域ケア会議におけるリハビリテーション専門職のかかわり方についてもご紹介いただいた。

- 書評** 理学療法 臨床実習サポートブッケーレポート作成に役立つ素材データ付（評者：藤井 顕）……………311
戦略としての医療面接術—こうすればコミュニケーション能力は確実に向上する（評者：新城名保美）…319
アスリートを救え スポーツ外傷・障害の画像診断 完全攻略（評者：菊地臣一）……………352

- お知らせ** Kirsten Götz-Neumann 観察による歩行分析セミナー……………343
リハビリテーション栄養実践講座 2016……………348
リハビリテーション栄養フォーラム 2016……………348
第 27 回日本末梢神経学会学術集会……………348

- 訂正とお詫び……………359